



僕が初めてこの家にやってきたのは、  
かれこれ二十年前のことだった。  
最初のご主人の名はジミーといい、  
このアルフレッド家の長男で、とても  
優しい弟思いの男の子だった。  
今日はクリスマスイヴ。  
特別な日に相応しい服として、  
ジミーのママがデパートで僕を  
選んでくれた。

彼の好きな色は赤だったから、輝くような真っ赤な僕を一目で気に入ってくれた。早速身につけて大はしゃぎ。部屋中ぐるぐる回って僕をみんなにお披露目してくれた。とても忘れられないひと時だった。

次の冬もジミーは、毎日のように僕を身につけてくれた。何だか一番の相棒になれた気がしてとても嬉しかった。

月日は流れ、僕はジミーの弟のティミーに引き継がれた。大好きなお兄ちゃんの手紙をもらって最初は喜んでいたティミーだけど、本当は青が好きだったんだ。



それに今の僕は、毛玉もでき、だいぶ古めかしくなっていたものだから、あまり着てもらえなくなってしまった。この子達とくっついて過ごす冬が何よりも幸せだった僕は、こんな日が来るなんて思いもしなかった。  
そんなある日、突然別れはやってきた。